



# 沓掛小学校だより

10月号

未来を拓く ～元気・やさしさ・かがやく瞳～

NO. 570

<http://www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou>

## 「特別活動」の大切さ

副校長 榎本 純子

先日の運動会には、大勢の保護者・地域の方々に御来校いただきありがとうございました。天候不順のため日曜日開催となり、お弁当の準備等で御迷惑をおかけしましたが、晴天のもとですべてのプログラムを行えたことをとてもうれしく思っています。2学期に入り雨の日が多く、校庭での練習が思うようにできない中で運動会当日を迎えることとなりました。そんな限られた時間の中でも、どの学年も工夫して練習を進め、当日は自信をもって表現したり、自分の力を最大限に出そうとしたりする子供たちの姿をたくさん見ることができました。

「運動会」に代表される学校行事は、学習指導要領では「特別活動」という領域に位置付けられています。特別活動の目標は「集団活動を通して調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」と定められています。この「集団活動を通して」という点こそ、学校だからできること、学校でしかできないことなのではないでしょうか。

例えば5年生が行った「長縄跳び」。縄跳びが苦手な子供にとっては「つらい、やりたくない。」「自分のせいで記録が悪くなるから逃げたい。」と感じることもあったかもしれません。それでも友達に励まされて少しずつ跳べるようになり、クラスの記録がだんだんと伸びていくとき「やった」という普段味わったことのない達成感を感じたはずです。6年生の組体操。近年、組体操に関しては、危険ではないかという議論が高まり、他の種目に変更する学校も出てきていますが、本校では安全に十分に注意しながら、今年も組体操に取り組みました。肩車一つとっても、ペアの友達と息を合わせお互いに信頼し合わない技を成功させることはできません。どの技でも、前後の友達

動きを一人一人が感じて動き、友達と息を合わせようとすることで、全体の調和がとれた美しい表現になっていきます。1年生の玉入れ、2年生の大玉ころがし、3年生の棒引き、4年生の綱引きなど、子供たちにとっては勝敗が一番重要だったことと思いますが、実はその練習を通して同じチームの友達と協力することを学び、一人の努力だけでは決して味わうことのできない、みんなで力を合わせたときの喜びを感じているのです。

特別活動の中には他にも、学級活動、児童会活動、クラブ活動などがあり、本校で行っているたてわり班活動もその一つです。私がこれまで経験してきた他の学校でも、異学年で遊ぶ活動はよく行われていたのですが、本校で行っている「たてわり清掃」はあまり聞いたことがありません。沓掛小では毎週金曜日の清掃をたてわり班で行っています。わずか20分の清掃の時間に、1年生から6年生までが決められた場所へ移動し清掃をするわけですから、普段クラスで行っている清掃より手間がかかります。実際に1学期は時間内に清掃が終わらない班もあれば、高学年がうまくリーダーシップを発揮できず低学年が何をしていたかわからずに困っている班もありました。それでも徐々にスムーズに進めることができるようになってきたことから、何度も経験を重ねることで子供たちがそれぞれの役割を意識し、よりよい人間関係を築く力を付けてきていることを感じます。

今後も、10月の土曜授業「わくわくチャレンジ」、11月の「音楽会」と、特別活動を見ていただく機会が多くあります。私たち教員は、当日の出来栄だけでなく、一人一人が自分の持ち味を生かし、成長を実感できるよう、その過程を大切にしていきたいと思えます。保護者の皆様にも子供たちを温かく励ましていただき、一緒に楽しんでいただければうれしく思います。